

令和 3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471900785	事業の開始年月日	平成18年4月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	社会福祉法人湘南福祉協会		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地	(〒 239 -0807) 神奈川県横須賀市根岸町4-10-10		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和3年11月15日	評価結果 市町村受理日	令和4年3月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ここ1年半、コロナ禍でレクリエーションとしての外出もままならなかったが、お誕生会を中心に四季折々の行事の際、ささやかであるが特別食を提供して気分転換を図ってきた。皆様、何処に入るのかと思うほど食欲旺盛でした。

・新型コロナウイルス感染症対策として、日に2度の館内消毒を励行した。また、基本的な感染予防対策業務として、手洗いの徹底・マスク装着、介助時のグローブ使用、会話時に距離を保つなどに留意した。また、ご家族にもご理解いただき面会制限などご協力いただきました。

・提携先である湘南病院の主治医による指示のもと、近郊のクリニックなども活用し疾病の重症化を防ぐことができました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和3年11月29日	評価機関 評価決定日	令和4年2月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇医療連携の充実

- ・系列法人「湘南病院」の医師（協力医）が月2回の訪問診療、訪問看護ステーションは週1回2時間の訪問がある。常時電話で連携指示が受けられる体制がある。病状により近隣のクリニックとの連携で受診出来る体制もある。

◇職員の定着率が高く、ケアの力量で安心した支援の提供

- ・10年以上の職員も多く、日常生活で利用者の見守りがよく出来ているので、転倒事故が少ない。事故発生には直ぐ検討し、再発防止策を講じている。

【事業所が工夫している点】

◇コロナ禍での安全予防対策

- ・業務の一環として、職員は朝9時、午後3時の2回の事業所内消毒を毎日実施している。手洗い、マスク着用、介護時のビニール手袋使用を日常化し、安全安心な支援の工夫をしている。

◇ADLを保持する自立支援の工夫

- ・車いす利用者3名を含めて全利用者をトイレでの排泄に誘導し、排泄時は手すりに掴まり便器に座ってもらっている。
- ・車いす利用者はリビングにいる時も、職員は車いすから利用者を椅子に移乗支援をしてADLを下げない工夫をしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームなごみ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に事業所、法人の理念を掲示して職員の意識統一を図っている	・事業所理念「一人ひとりの意思を尊重し、お互いに助け合いやりあいながら楽しい団欒の中にやすらぎと喜びを実感できるホーム作りを目指します」の基、職員は月1回の職員会議で話し合い、利用者支援をこの理念を共有して実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、避難訓練・防災訓練には顔を出すようにしている また、ときどき近隣を散歩するようにしている	・コロナ禍前は、地域の夏祭りや広域避難場所の中学校の避難・防災訓練に利用者数名が参加していた。 ・午前中のお天気の良い日に車いす利用者は散歩中に、出会った地域の住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事参加や散歩・お買い物などを通してグループホームの存在を知ってもらうよう努めている 見学などの際、認知症介護について理解を深めてもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、町内会、市から指摘された助言・提案をサービス向上に活かしている	・コロナ禍で運営推進会議は、現在開催できていない。会議に替えて書面で近況報告を市役所指導監査課、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、全家族に2か月ごとに郵送している。家族の意見で職員のマスクの使用方法について検討した事例がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールでの伝達が主となるが、集団指導講習や運営状況点検書を中心にとくに感染予防を参考にに取組んできた	・横須賀市介護保険課と県立大学からのアンケートに協力している。 ・横須賀市グループホーム協議会から研修の連絡が来る。 ・市との連携協力で、コロナ対応について消毒の方法の説明や消毒薬、マスクなどの支援がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等禁止委員会と研修を定期的 に開催。原則、「身体拘束をしない ケア」を周知徹底させてる	・3か月に1回「身体拘束等廃止委員 会」を開催し年2回研修を実施して いる。議事録を回覧して職員全員で 共有している。 ・「入所施設における身体拘束等の 適正化のための指針」の基、月1回 の職員会議で、周知徹底している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学 ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待 が見過ごされることがないように注意を払い、防止 に努めている	虐待防止委員会を職員会議の中で開 催し、虐待に当たるかどうかの認識 を皆で話し合っている	・「虐待防止委員会」は3か月ごと に開催している。 ・県のチェックシート（高齢者施設 における虐待防止に係る点検実施要 領）を全職員が提出している。 ・身体拘束と同じようにスピーチ ロックなどに注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性 を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	職員会議などで学ぶ機会を設けてい る		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家 族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理 解・納得を図っている	具体的な例を提示していねいに説明 し、不安を軽減してる		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並び に外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反 映させている	ご家族への連絡・報告時や面会時な どに気軽にお話いただけるよう配慮 してる	・家族会はあるがコロナ禍で開催で きていない。運営推進会議の書面報 告は全利用者家族に郵送している。 家族からコロナ感染初期に職員のマ スクの付け方で意見があり、対応し た。現況の面会は予約制で1名15分、 事務所内で実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送り時や、月1度の職員会議の時などに発言してもらい反映させている	・職員個人面談は年1回実施し、自己申告書（希望要望）を提出している。管理者はまとめて法人に報告している。 管理者は職員の意見で即断できるものは（日常生活用品補充やケアの仕方）利用者支援に反映している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は法人本部での施設長会議や、一般職員では自己申告書提出で吸い上げている。 不定期で法人幹部の事業所巡回あり	・就業規則マニュアルの作成をしている。 ・休憩室は事務所内のスペースを利用している。 ・職員の健康管理は夜勤従業者は年2回、他従業者は年1回の健康診断を実施している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上位資格取得や各種研修会参加を法人として推奨している	・職員は法人内研修の参加や、「認知症実践者研修」などの取り組みに参加し、資質向上を目指している。 ・管理者は新人職員にOJTの取り組みでケアの技術面と個々の利用者対応の指導をしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同じ法人内や、地域のグループホーム協議会参加で情報交換の機会を持つ。とくに今回はコロナ感染につき貴重な情報を得た。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族、担当ケアマネから情報がある程度得た上で、サービス開始前に偏見を持たずにご本人の要望に耳を傾ける		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	個人情報に留意しながら、似たような具体例を取り上げ、率直に申し上げることで安心していただくようにしてる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントだけでは不十分なので、入所して数日間の行動を参考にして対応してる		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間を共にする時、生活暦やご家族のことなどを聞き出し良い関係を作るようにしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や最近のご様子を連絡する際、ご希望や率直な意見を伺うようにしてる		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人のお話の中に出て来る関係性のある人物や場所を探し出し、受け止めるようにしてる ・コロナ禍で条件は付くが、なるべく面会の機会を設けてる 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は利用者ごとのアセスメントシートで馴染みの場所や人間関係を把握、共有している。利用者に電話、手紙の取次をしている。 ・コロナ禍前は家族が基本的に付き添い美容院、買い物、外食をしていた。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	こまめに声かけし孤立しないようコミュニケーションをとっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	失礼にならないよう適宜連絡をとっている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活してる中でルールが理解できず思い通りにならないことがままあるが、訴えを傾聴しなるべくご要望に近づくようにしてる	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は利用者、家族双方から傾聴することを大切に把握している。 ・把握した情報は申し送りノートに記録し、共有している。 ・介護計画の個別支援に編み物、ぬり絵、外出（化粧品購入・美容院など）支援をあげている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントだけでは足りない情報を会話の中で拾い、参考にしてる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士が情報の共有につとめ、個人にあった不安を軽減する対応に努める		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化があった時、職員間で申し送り等で対応を確認し介護計画に反映させる	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングは3か月ごとに実施している。 ・本人とは入浴時などの支援時に、家族からは電話で意見や要望を聞き介護計画に反映している。 ・医療関係者の意見は訪問診療時や電話で指示を受け反映している。 	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いたことや思いなどを個人記録に記入し、職員間で情報共有できてる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズの気づきや職員のアイデアで柔軟な対応ができてる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で思うような外出支援ができず、地域資源になかなか辿り着かないのが現状		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ふだんよりご家族と往診医との橋渡しをしており、何かあれば適切な医療が受けられる環境にある	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者全員が協力医をかかりつけ医としており、月2回の内科訪問診療と歯科健診を行っている。週1回訪問看護師がきて健康管理を行っている。 ・精神科、眼科等の通院は、職員が付き添い受診している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週1回来ており、健康管理や配薬等相談に乗ってくれる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、適時お見舞いするとき、医師・看護師からの情報収集やご家族への連絡をしてる。 退院後の生活の留意点などご家族と共有してる。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	月2回の回診時、ご家族に来所していただき医師より現状や治療方針を説明してる	<ul style="list-style-type: none"> ・「重度化した場合における対応に係る指針」を入居時に家族に説明し、同意を得ている。 ・重度化した場合や緊急の場合は、運営法人の病院と連携して入院等の対応をしている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時、施設長への連絡または主治医への報告、指示を仰ぐなど態勢が出来てる。それまでの初期対応も同じく用意できる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員会議時、避難方法などを確認し2回/年避難訓練を実施し消防署に報告してる。 (今期はないが)地域の避難訓練にも積極的に参加している	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回夜間想定避難訓練を行っている。消防署からは、災害時には、ベランダに避難誘導するよう指導を受けている。 ・備品リストがあり、水、食糧(レトルトご飯、カレー、カップ麺)3日分や防災備品を管理している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢化に伴い衰えてくる体力、思考力等をふまえ、自信を失ったりネガティブにならないように気を付けている	・利用者の呼び名は、「・・さん」と呼ぶようにしている。職員同士の会話は、個人名を出さないよう部屋番号で呼び合っている。 ・管理者は、職員が不適切な発言や行為があればその場で注意している。また、職員同士注意しあうよう働きかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活のルールを理解できていない利用者の要望にも、傾聴を心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人ひとりが、なるべく有意義に過ごせ、日々穏やかに暮らしていけるよう配慮してる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な下着、季節に合った衣服の声かけ・提供、整容（つめ切り）など支援してる		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	（なかなか一緒に料理作りはできないが）催し物の際のケーキデコレーションや、季節の食材を用い食事に関心をもっていただいている	・献立、食材の調達、調理は、全て職員が行っている。毎日注文した食材を生協が届けて、足りない分を近所の商店に買い出しにしている。 ・誕生日会の時は、特別に寿司や刺身を買ってきて食事を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や生活習慣を考慮し、無理強いをせず食器を替えたり声かけを工夫したりしてる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の助言などを仰ぎ、個人個人に合わせた介助をしてる		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	食事の前後は「トイレに行きましょう」と皆さんに声かけし習慣づけている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は排泄マニュアルにそって利用者の自尊心を傷つけないよう、トイレ誘導や排泄の失敗に対応している。 ・排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握して、こまめな声かけと誘導により、トイレ利用を習慣付けるよう努めている。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事時のお茶のお代わりや、こまめに摂るなど水分摂取を励行してる		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	拒否がある時はタイミング（時間、ひと、環境）を替え、無理しないでゆっくと入浴していただいている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は、午前中、週2回とし、1日3人をゆっくり時間をかけて行っている。入浴拒否の時は、日にちや、声かけの人や話題を替えるなど気分を変える工夫している。 ・職員は、入浴方法、介助方法、留意点などが記載された「入浴管理表」を活用して、支援している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なかなか寝付けない方には入床まで見守り対応したり、ときどき日光浴や短時間の散歩をしてる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用されている薬を理解し、担当者が飲み込みまで責任をもって対応してる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	基本的に余暇時間は自由ですが、洗濯物たたみや簡単な作業を手伝ってもらってます。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時々、近隣の短時間の散歩や、施設前庭での日光浴などを実施してる。残念ながら遠出の外出は現在行っておりません。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は、週1回30分程度かけて車椅子の方と事業所周辺を散歩している。また、前庭でパイプ椅子をだして外気浴を行っている。 ・コロナ禍以前は、交通公園の桜や菖蒲園の菖蒲を鑑賞するなど外出を楽しんでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外気浴や施設周辺の散歩を行っていますが、散歩コースや時間配分、利用者への声かけ誘導など工夫して、散歩の機会をさらに増やすことが望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお小遣いをお預かりし、その中からご希望の品物を購入することになっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば事務所の電話を気軽に使用していただく。 レターセットを提供し、投函まで支援してる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の室温に注意したり、特にトイレがいつもきれいな様に、掃除・消毒をしてる。 また1日に2度居室、共有部とも消毒してる。	・居間の壁には、利用者の塗り絵、花飾りなど季節感ある作品がかかっている。 ・コロナ禍で、居間の換気は、1時間おきに5～10分間の換気を行っている。トイレ、浴室清掃を毎日職員が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	関係性や不穏（不安）状態を考慮し適切な距離を保ちお過ごしいただいている		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全が確保できた上で、お好きな置物・掲示物を飾っていただいている	・居室には、電動ベット、エアコン、防火カーテン、クローゼットが設置されており、利用者は、タンスやテレビ、趣味の作品を持ち込んでいる。 ・職員は、毎日居室を清掃し、居心地よく、過ごせるよう整理整頓を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ案内などの表示物は混乱しないよう必要最小限にし、声かけ促しを基本とする		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームなごみ

作成日 令和4年2月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	23	ときどき「何もすることが無くてつまらない」と耳にすることがある。	一人ひとりのしたいことを少しでも実現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりに担当者を決める。 ・いま何がしたいか？を聞き出す。 ・実現に向けた計画（時間、お金、人員等）を立て、できる人から実施する。 	3から6ヶ月
2	13	身体的重度化（ADLの低下）や認知症の進行により、職員の対応が追いつかない。	無利をしないで介護（介助）することの意識統一を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でできなかつたら時間を変え、人を変え、場所・方法を変えることを共通認識とする。 ・適切な研修に参加し刺激を受ける。 	6ヶ月
3	34	職員全員が急変や事故発生時の対応ができていない。	職員全員が初期対応や応急手当ができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的特徴を把握している。 ・転倒リスクの高い利用者の身体的状態を知っている。 ・重度化した場合の利用者の現病（病状）を知っている。 ・対応の仕方ができる。 	3か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。